

平成 26 年度事業の総括

平成 26 年度の沖縄観光の入域客数「ビジットおきなわ計画」目標 690 万人（海外 80 万人）に対しまして、716 万 9,900 人（国内 618 万 3,900 人・海外 98 万 6,000 人）で、対前年比 64 万 4,600 人増加、率にして 10,1%の増加となり、2 年連続で過去最高を更新し、初の 700 万人台を記録した。

前年度と比べて増加の要因としては、円安の継続に伴う国内旅行及び訪日旅行需要増加と海外航空路線の拡充・クルーズ船の寄港回数増加による外国人景気感が上向いたことが旅行需要増に拍車をかけ、旅行マインドがプラスに動いたと見られる。また、国内 L C C の沖縄路線就航による誘客効果が継続されたことや、新石垣空港の開港効果で、石垣島発着の航空路線が拡大したことが入域増の大きな要因として考えられる。

外国人観光客につきましては、円安に伴い割安感のある訪日旅行需要が拡大したことに加え、航空路線の拡充で台湾・韓国・香港の安定した増加、中国本土についても路線の再開やクルーズ船寄港により徐々に回復しており、いずれも過去最高の入域数となった。

名護市観光協会では、県内外からの観光客誘致のため実施している、第 36 回名護市長杯争奪全島ハーリー大会（約 5,000 人）、第 53 回名護さくら祭り（二日間・165,000 人）のイベントを実施したほか、青年部 S T E P の事業として、第 5 回やんばる夜祭り in ネオパーク（7 日間・2,100 人）を開催その他、名護市 P R 事業として、東京都にて日本さくらの会総会・群馬県館林つつじ祭りや、北海道日本ハムファイターズ札幌応援ツアー & 名護 P R デーに名護さくらの女王を派遣し名護 P R を行った。

また、8 月から県の元気プロジェクト事業を活用し『名護ハーリー M I C E 商品プログラムメニュー』の開発に着手、名護ハーリーを年中体験できるプログラムを軸に、企業研修旅行・修学旅行の団体様のニーズに応える為に、チームビルディング理論に基づいたハーリー体験プログラムを提供しており台湾での旅行社・企業への事業説明を行いました。

10 月には、O C V B 主管による、2014 ツーリズム E X P O ジャパン東京・1 月には、2014 沖縄ナイト in 東京・大阪に於いて、行政・協会職員と共に市内観光事業者と連携をし名護ブースを設置、ハーリー M I C E 体験・名護まちなか散策ガイド事業の他、名護市のパンフレット・D V D を活用し P R 活動を実施、また、東京都内教育旅行社（8 社）の挨拶周りをを行い名護市の魅力や着地型商品の P R を行った。

27 年度も引き続き広報 P R 活動の強化を図ってまいりたいと思います。

【主な事業】

1. 2014 海フェスタ in 名護の開催

平成 26 年 4 月 19 日(土)21 世紀の森ビーチに於いて、ビーチクリーン小学生、各企業・団体含め約 100 名の動員がありました、また、名護市長始め観光協会役員関係者で海の安全祈願祭を行いました。また、第 40 代名護さくらの女王の夏服のお披露目も行い、市青年団による獅子舞演舞や少年ビーチサッカー大会も同時に開催し海フェスタを盛上げた。

2. 接遇マナー（観光基礎）講座の開催

平成 26 年 5 月 9 日(金)名護市へ訪れる観光客に、より良いサービスを提供し企業の資質の向上を図り、観光地名護市をアピールしていく為、宿泊施設・観光施設の新人職員を中心に約 30 名余が接遇マナーを受講した。

3. 第 36 回名護市長杯争奪全島ハーリー大会

観光振興及び漁業振興を図る目的で、平成 26 年 8 月 3 日(日)名護漁港構内において 180 チーム 2,745 名の選手が参加し観客を含め約 5,000 名の動員数があり『ハーリー甲子園』と呼ばれるにふさわしい県内最大のハーリー大会が行われた、県外から友好都市の館林市チームの参加もあり大会を盛り上げた、また、台湾のドラゴンボート関係者を招聘し観戦を楽しんで頂き今後は互いのハーリー交流も行いたいと思います。

【男子の部】

優 勝：	沖水 1 号（糸満市）	3. 2 3. 0 1
準優勝：	はまゆう（うるま市）	3. 2 3. 1 0
三 位：	チームタクミ（糸満市）	3. 2 4. 0 6

【女子の部】

優 勝：	1 0 倶 琉（名護市）	1. 4 4. 9 7（3 連 覇）
準優勝：	友遊会（名護市）	1. 5 0. 3 1
三 位：	チーム O O K K I I（うるま市）	1. 5 0. 7 5

【エキシビジョンの部】

優 勝：	美豚倶楽部（うるま市）	1. 3 7. 8 5
準優勝：	倭寇 J r（名護市）	1. 4 4. 0 4
三 位：	新島ジュニア（糸満市）	1. 5 6. 3 4

4. 第5回やんばる夜祭り in ネオパーク（青年部STEP）

日 時：平成26年8月1日～毎週金・土・日（9日間） 18時～21時

場 所：ネオパークオキナワ

夜の観光目的で、ネオパークオキナワとの連携事業行い、県内外の旅行社とタイアップをした夜祭りはナイトトレイン・ナイトZOO・3Dシアターを行った、またステージでは、地元青年会のエイサー・保育園児の踊り等も披露し県内外からの来訪者に楽しんでいただいた、9日間総入場者数は、約2,000人が会場を訪れた。

5. 第41代名護さくらの女王選考会

平成26年11月29日（土）、名護市産業支援センター大会議室で行われた、さくらの女王選考会において比嘉和佳奈さん運天成美さん久高玲蘭さんの3名が第41代名護さくらの女王に選ばれた。3名の女王は、1年間の任期で名護市の親善大使として、県内外で名護市のPRに務めている。

6. 第53回名護さくら祭り開催

「日本の春はここから始まる」をキャッチフレーズに、平成27年1月31日と2月1日の2日間開催。、シャトルバスで名護城の桜見見学を実施（バス利用者二日間963名）・名護大通りをトランジット化させ市民参加型のイベントを実施、それに名護漁港で開催されたガーデンフェスタ会場にも多くの方が来訪、友好都市の滝川市・八幡平市・館林市・枚方市の関係者を始め、市内外から、約165,000人余（本部前2日間統計）が名護市を訪れた。

今年の開花状況7分咲きで葉桜となった

7..ハーリー体験事業

平成26年5月31日（土）21世紀ビーチにて、レンターズ沖縄45名、6月1日（日）兵庫県神戸私立舞子中学校200名、11月10日（月）東京都立聖望学園高等学校380名を受け入れた、協会職員・漁業組合・ハーリー関係者の協力をいただき安全な海の体験事業を行うことが出来た、着順を競うハーリー競漕は、『名護ハーリー』チームビルディングプログラムを取り入れ、団結力・達成感が図られチームワークと組織力向上に寄与します、また、地元関係者との交流ができることから、旅行社・学校関係者から高い評価をいただいている。

8. インバウンド対応語学研修会の実施

沖縄県、世界に通用する観光人材育成事業を活用し、平成26年9月1日（月）から20日間/40時間 17名 名護市産業支援センター会議室に於いて英語の勉強会を行った、12月2日（火）から10日間/30時間 8名 同会場にて中国語の勉強会を行った講師を派遣して頂

き、観光従事者を中心に研修会を行った。

9. 元気プロジェクト MICE メニュー開発・受入体制充実支援事業

平成 26 年 7 月～平成 27 年 1 月（7 ヶ月間）

名護の海を活用して、年中活用できる北部地域の新たな観光目玉商品として、名護ハーリーを活用した新しい本格チームビルディングアクティビティを開発し、国内旅行社とタイアップした北部地域の回遊性を高める取り組みを行い、海外市場開拓と商品ブラッシュアップを図るモニターを実施し自走化を図る目的で事業をスタートしました。

8 月ハーリー大会へ台北市の企業を招聘し大会の見学とハーリーについての意見交換会を実施

9 月から 12 月琉球大学講師の指導のもとチームビルディング理論の勉強会を実施

9 月ツーリズム EXPO ジャパン in 東京・10 月沖縄 MICE トレードショーにて動画で紹介しながらアンケート調査・意見交換等を実施

1 月台北市ロータリークラブ（永楽社/31 社）でのプレゼンテーションを実施

1 月名護市 21 世紀ビーチにて県関係者・旅行社へのモニターツアーの実施

27 年度は、国内旅行社へのセールス強化を行い誘客促進及び認知度の向上を行う、海外誘客につきましては、台湾以外にも香港・韓国・シンガポールへのプロモーションを行うと同時に現地での企業向け情報発信を強化を重点に行っていく。

10. やがじ夢の架け橋創出事業

平成 26 年 11 月～平成 27 年 3 月（4 ヶ月間）

屋我地地域において、観光関連事業者の参入により地域の資源を活用した体験メニューの開発及び提案が寄せられており、地域と観光関連事業者等との共存に向けたルールづくりに向けて、地域住民の意見を互いに共有する場をつくり地域の課題を整理する目的で委託業務を行いました。

- ① 地域情報の整理：人口・世帯数・土地利用・規制条件・交通条件・産業・施設分布等
- ② 地域懇談会の実施：5 地区にて事業説明と地域の意見集約・課題把握等
- ③ 地域資源再発見（やがじ散策）の実施：地域の資源を回る（散策）を企画し、地域が現状と課題の確認ができるよう運営する事が必要である。地域資源の持続的な活用の為に何をすべきかの問題意識を持てるように留意する。
- ④ ワークショップの実施：自然環境と観光関連産業との共存についてのワークショップの開催
- ⑤ 地域課題の整理：①～④までの作業を総合し、やがじ地域の課題の交通整理を行った。

【協力事業】（付属明細）

1. 日本さくらの会中央大会総会

平成 26 年 4 月 1 日～3 日の日程で、第 49 回さくら中央大会へ第 40 代名護さくらの女王山本 南夏さんと職員 1 名を派遣した、名護市は県内唯一の日本のさくら 100 選出されており、さくら前線は南の名護市から日本一早いさくらの P R を行った。

2. 第 21 回羽地ダム鯉のぼり祭り

平成 26 年 5 月 3 日～4 日の日程で開催されました、鯉のぼりの掲揚数として 350 匹し羽地地域の関係者を中心に祭りを盛上げており二日間で 24,799 人が会場に足を運んで頂きました。観光協会と致しましては、名護さくらガイドによる羽地地域の歴史・文化・自然を満喫できる羽地ジブンウォークを行い参加者数 45 名が地域資源を学びました。

3. 北海道日本ハムファイターズ札幌応援ツアー

平成 26 年 6 月 26 日～29 日の日程で、58 名の応援団を札幌ドームに派遣し、ファイターズと東北楽天戦を観戦した、また、名護デーを開催し特産品の販売 P R も同時に行いキャンプ地名護市の P R を行った。

4. ツール・ド・おきなわ 2014 の協力

平成 26 年 11 月 8 日（土）9 日（日）

第 26 回を迎えたツールドおきなわ年々参加者が増え今年は、4,588 名（県内 2,048 名・県外 2,195 名・海外 345 名）対前年 100 名の増となった。また、北部 12 市町村の参加状況も年々増加傾向にあり今年は 609 名の参加がありました、中でも、一輪車・三輪車で 343 名エントリーがあり子ども達の認知度が高まっている結果である。

5. 第 27 回 名護・やんばるツーデーマーチの協力

「健康と生きがいづくり」をテーマに、平成 26 年 12 月 15 日・16 日の 2 日間開催、5 km から 40 km までの 8 コースに 2,287 名（県外参加者 667 名）が参加、秋のやんばる路ウォーキングを楽しんだ。名護市全域を舞台にしたこの大会は、日本マーチングリーグ公認 15 大会の一つで、年末、しかも唯一亜熱帯での大会とあって、最も人気のある大会となっている。観光協会は、商工観光課と連携をし大会本部及び各コースの運営業務を行った。

6. 北海道日本ハムファイターズ春季キャンプ支援

東京から北海道に本拠地を移して11年目を迎えた北海道日本ハムファイターズ1月31日空港歓迎式を行い、平成27年2月1日から28日までの1ヶ月間、名護でキャンプを行った。名護市観光協会は、市及び商工会と共に「北海道日本ハムファイターズ名護協力会」の構成団体として、ファイターズのキャンプ受入協力と支援を行っている。

7. 北海道日本ハムファイターズファンの集い

平成27年2月7日、(土) 21世紀の森屋内運動場で開催。栗山秀樹新監督率いるファイターズ選手団と地元のファンが集い、サイン会・選手会主催の抽選会等が行われ、和やかな夕べとなった。今年は、約800名が参加した。

8. オープン戦の開催支援

平成27年2月21日(土) 東北楽天戦、約2,000名23日(日)の来場があった。観光協会は、ファイターズ名護協力会として前売りチケット販売・事前広報・当日の応援を行った。

9. インターネットHPによる情報発信

名護市の観光情報の発信及び情報収集を目的として、インターネットのホームページ上で、最新情報発信および会員の事業所紹介に努めた。

【アクセス件数】

月	アクセス件数	1日平均
4月	15,125	504
5月	18,593	620
6月	18,544	714
7月	27,113	904
8月	27,567	919
9月	16,188	592
10月	17,423	581
11月	18,643	621
12月	24,625	821
1月	55,561	2,165
2月	25,783	774
3月	19,324	644

・アクセス件数 合計 284,489件 (昨年件数 277,620件)

【対前年 103% 6,869件増】

※総括

前年より、ホームページの内容を充実させ、市内ローカル情報も掲載した結果、対前年に比較すると毎月のアクセス数が増であった。

全体的に、名護市の情報に限らず北部地域全体の問い合わせが増えている事も増加の要因といえる。

※上半期：6月～8月の動向

夏のシーズンを迎え、観光施設・イベント情報の問合せも増えている中でも、夏祭り・ハーリー大会開催でアクセス数が伸びていると考えられる。

※下半期：9月～3月の動向

前年同様、名護さくらの女王・名護さくらまつりとイベントに関する情報提供を行っている中でファイターズのキャンプ日程・ファンの集い等に関する問合せ等が増加の要因と考えられる。

特に2月の対前年比 2,540件増は、ファイターズ大谷選手効果が増加の要因と考えられる。

